

会議録

会 議 名	令和元年度（2019年度）第1回八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進懇談会	
日 時	令和元年（2019年）8月8日（木） 午後7時 ～ 8時45分	
場 所	八王子市役所 本庁舎事務棟5階 501会議室	
出席者氏名	参加者	浅野里恵子、荒井富雄、石川敏之、落合隆、澤昌秀、中庭光彦、三島雄介、古谷純
	事務局	小柳悟（都市戦略部長）、今川邦洋（都市戦略課長）、石川智也（都市戦略課主査）、興梠翔大（都市戦略課主任）、世古望（都市戦略課主事）、柴田恭典（都市戦略課主事）
	その他市出席者	植原康浩（総合経営部長）、小峰修司（市民活動推進部長）、太田國芳（都市計画部長）、澤田正一（子どものしあわせ課長）
欠席者氏名	伊藤史子	
次第	1 開 会 2 議 事 (1) 八王子市の人口の現状について (2) 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の平成30年度（2018年度）実績評価について (3) 次期総合戦略策定にあたっての検討課題について 3 その他 4 閉 会	
公開・非公開の別	公開	
非公開理由	—	
傍聴人の数	なし	
配付資料名	資料1 八王子市の人口の現状 資料2 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略 平成30年度（2018年度）の実績評価 資料3 次期総合戦略策定にあたっての検討課題 参 考 まち・ひと・しごと創生基本方針2019について（令和元年6月）	
会議の内容	別紙のとおり	

1. 開会

《参加者紹介》

【事務局】

（参加者の紹介及び挨拶）

2. 八王子市の人口の現状について

《説明》

【事務局】

（配付資料1についての説明）

《意見等》

【落合氏】

- ・由木管内などニュータウン地区は比較的増加しているようだが、南大沢管内だけ減少傾向となっていることに、何か理由はあるのか。

【都市計画部長】

- ・ニュータウン地区では、居住者の高齢化が進んでおり、このような傾向で推移しているのではないかと考えている。
- ・近年、中心市街地にマンション建設が相次いでおり、本庁管内に人口の増加が見られることから、これらの地域から中心市街地への転居も進んでいるのではないかと。

【石川氏】

- ・国勢調査人口に、外国人住民は含まれるのか。

（事務局から説明）

- ・そのとおりである。

3. 八王子市まち・ひと・しごと創生総合戦略の平成29年度実績評価について

《説明》

【事務局】

（配付資料2について、達成状況が「△（遅れているもの）」を中心に説明。）

《意見等》

【澤氏】

- ・庁内で、このKPIの設定は適切ではなかったかもしれないという評価をしているものはあるか。行政として、見直すことはなかなか難しいと思うが、次期戦略策定のためにも、KPIの設定が適切でなかったと、所管から生の声としてあげられているものはないか。

（事務局から説明）

- ・KPIの設定自体について、所管から適切でないといった意見は寄せられていない。
- ・総合戦略のKPIは、市の最上位計画である「八王子ビジョン2022」の各施策の指標と目標値との整合を図っているため、2022年度（令和4年度）までは、この目標を目指すことになる。

- これ以外に、新たな所管独自の取組のなかで、総合戦略の推進を図るものはある。
- 現時点において、KPI の設定自体を見直す考えはない。

【澤氏】

- 今年度の次期戦略の検討にあたって、いつ KPI の見直しに関する議論が行われるのか。

(事務局から説明)

- 現行の総合戦略の KPI は、「八王子ビジョン 2022」において設定された指標を前倒しして、2019 年度（平成 31 年度）の目標値として設定しているため、次期戦略においても、2022 年度（令和 4 年度）までの目標値は生かしつつ、次の計画を策定する予定である。

【澤氏】

- 遠くの大きな目標に対して、近くの計画が細かく立てられるものだが、計画策定当時と社会情勢等が変わってくるとすると、当然、途中で見直しを図るべき。
- 設定した KPI をただ追いかけるだけでなく、柔軟に見直すことができたら、進捗管理に追われることなく、他の分野にも人的資源を割くことができるのではないか。

(事務局から説明)

- 新たな課題も見えてきているので、新たな KPI の設定が必要になるものもあると認識している。

【中庭氏】

- 懇談会としては、策定当初においては、KPI 等、計画どおりに進捗管理や評価をする立場にあるが、一方で、計画期間を経過するなかで、5 年前に定めた項目が今と合わないことはあり得る。外部環境の変化についても、考慮しなければならない。
- 人口の増減、合計特殊出生率の推移から、単身化や共働き世帯の増加は、都市部及び郊外部において共通の現象といえる。
- 八王子市の人口のデータをみると、本庁管内が急激に増加していることから、住宅供給のパターンもあり、利便性の高い中心部への集積が読み取れる。逆に、周縁部はだんだんスポンジ化しており、これは全国的にも見られること。
- 今後の変化を見据えながら、この総合戦略を 5 年前に策定したものとは別に、これから現実取るべき方向性を検討するといった、「二枚腹」が重要になる。
- KPI の実績値（数値）の評価についても検討しなければならない。5 年間の取組のなかで、市民のニーズに十分に応えられた結果として目標を達成できたのか、それとも、そもそもニーズが無かったのかによって評価は異なるので、こういった検討を踏まえて KPI の見直しを行う必要がある。

(事務局から説明)

- たとえば、子育て施策に関連する KPI 等においても、すでに達成されているものもあり、また、伸び悩んでいるものも多い。今後予定されている「子ども育成計画」などの改定にあわせて、これらの計画を踏まえ、総合戦略の KPI も見直していく必要があると考えている。
- 実績値（数値）評価については、いただいたご意見を参考に整理していきたい。

【古谷氏】

- たとえば、KPI「子どもたちに対し適切に教育できる環境となっていると感じている保護者の割合」は、80.0%と高い実績値だが△となっており、KPI「安心して子育てができておりと感じている市民の割合」は 49.7%と半分以下だが、◎になっている。達成状況は、あくまで前年度又は目標値に対しての実績に対する評価であり、絶対的に良いか悪いかという話ではないはずである。
- 達成状況に応じて、次の展開はどうなるのか。たとえば、未達成のものについては、テコ入れをし

て予算措置をする等といったことはあるのか。

(事務局から説明)

- ・◎の考え方は、各 KPI に定められた目標値に到達しているものという整理にしている。○は、目標値に向かって数値が順調に推移しており、計画期間内の目標達成が見込めるもの、△は逆に数値が下がってきてしまっているもの。
- ・達成できていないものについては、必要に応じて予算措置等を行いながら、目標達成に向けて取り組んでいくこととしている。

【古谷氏】

- ・◎と△で、どちらを優先的に予算措置する必要があると考えているのか。

(事務局から説明)

- ・目標達成(◎)をもって、取組を終了するわけではない。△のものは、取組をより強化する必要があると考えている。限られた財源ではあるが、選択と集中を行いながら、すべての項目の目標達成に向けて取組を推進していくという考え方である。

【荒井氏】

- ・「八王子ビジョン 2022」は 10 年間の計画となっているが、世の中の動きも早く、社会情勢も大きく変わってきている。動いた分、どんどん見直しを行って、必要な部分と必要でない部分を分析して、対応していく必要がある。
- ・「町会・自治会加入率」は、本来 100%を目標にするべきである。なぜ中途半端な目標値(67.6%)にするのか。

(事務局から説明)

- ・目標値は、平成 27 年度(2015 年度)時点の実績値と「八王子ビジョン 2022」で定めている目標値を踏まえて、各年度の目標設定をしている。

【荒井氏】

- ・町会だけの話をすると、たしかに、加入団体は増加しているが、連合会の未加入団体がもともと 3 分の 1 ぐらいある。一番の問題は、現存の町会・自治会の加入率が減少していることであり、「価値観の多様化」といって簡単に片づけられる話ではなく、もっと細かく分析したうえで、目標を立てて取り組んでいく必要がある。
- ・人口減少・少子高齢社会のなかで、地域のコミュニティをどうするかはとても重要な課題である。
- ・町会の役員の仕事が嫌で、脱会する人が多い。いつまでも同じ人が役員をやっている、どこの会議に行っても同じ人がいる。これでは、地域での協力体制がなかなか成り立たない。会員数の減少が続いており、抜本的な改革が必要である。

【市民活動推進部長】

- ・条例も制定して取組を強化しているが、具体的に「これをすれば解決できる」といった答えがあるわけではない。
- ・マンションの管理組合にも働きかけていきたい。
- ・いろいろなご意見をいただきながら取組を進めていきたい。

【澤氏】

- ・KPI「八王子若者サポートステーション進路決定者数」について達成状況が△だが、この制度を使わずに就職できた人が増えているのであれば、◎ではないか。総合戦略の目標は、市内での就職者数を増やすことだが、この KPI の設定により、進捗が遅れているという評価になるのはおかしい。

【浅野氏】

- 発達障害や貧困家庭の若者に対する支援が拡充しており、この制度以外にも選択肢が増えている。この KPI のみでは測ることのできない成果がある。

【三島氏】

- 達成状況が「判断できない（一）」KPI があるが、そもそもこのような数値を KPI に設定することに疑問を感じる。5 年間の計画期間において、進捗状況を評価できないものを設定することは、現実的でなく、改善する必要がある。
- ◎○△の評価については、当初の目標値の設定による部分が多い。当初から目標を高く設定しているものは達成状況が厳しい。◎の場合も、当初の目標設定が低かったのではないかと見受けられるものがある。
- 次期戦略の策定時には、これらを考慮した KPI（目標値）の設定が重要である。

（事務局から説明）

- KPI にふさわしいと判断した国の統計調査などを使用した場合、2 年に 1 回などの統計調査もあるため、やむを得ないと考えている。
- 最終的な KPI の達成状況等の判断は全てできると考えているが、毎年度の実績値を把握できない KPI については、いただいたご意見を参考にしたい。

【荒井氏】

- 「八王子ビジョン 2022」が 3 年後に改定になるが、その資料づくりのために、このような懇談会等の意見も活用されるのか。いろいろな部署において、市民参加の懇談会が行われているが、「八王子ビジョン 2022」の改定につながるものなのか。

（事務局から説明）

- 「八王子ビジョン 2022」の改定は、現行のさまざまな計画の状況を踏まえて、10 年間の市の方向性を決めることになるため、さまざまなご意見を取り入れながら策定することになる。

4. 次期総合戦略策定にあたっての検討課題について

《説明》

【事務局】

（配付資料 3 について説明）

《意見等》

【三島氏】

- 基本構想・基本計画と総合戦略を一本化していくという方向性で検討しているのか。

（事務局から説明）

- そのとおりである。一体化して改定することにより、計画の推進力が増すと考えている。今後の具体的な進め方や改定方法の詳細は、改めて調整したうえで、提示したい。

【三島氏】

- 一本化による予算削減効果はあるか。

（事務局から説明）

- 予算への影響は、あまりないものと考えている。

【澤氏】

- 一本化したほうが良いという印象を受けている。
- 改定にあたっては、KPI は現実的な実績値の得やすいものになってしまいがちだが、目指すべき将来の方向を含めて、市民にとって「夢のある」計画にしてもらいたい。
- 昨今、Maas（モビリティ・アズ・ア・サービス）という言葉が注目されている。マイカーを手放さなければならなくなっても不便な地域で生活できるまちを目指すのか。それとも、交通が不便な地域が縮小するのは仕方ないと割り切るのかによって、まちのあるべき姿は全然違ってくる。
- たとえば、「バスの乗降人員数」の KPI においては、都市部の利用者数だけが増えても、まち全体が活性化しているとはいえない。
- あるべき姿を掲げて、実現すると市がこんな素晴らしいまちになっていくという計画を作ったうえで、これを実現するために具体的にどのような施策を行い、この結果どういう KPI を見ていけば、必然的に達成されているというようなものにしなければならない。
- 設定する KPI が、最終的な目的である人口の増加や維持に対して、しっかりと寄与する KPI になっているのかを考える必要がある。

【総合経営部長】

- KPI については、行政にとって比較的新しい概念として取り入れ始めていたもの。「八王子ビジョン 2022」の策定時には、職員自身もどう設定すればよいか不慣れなところもあった。
- 次期基本構想・基本計画については、これまでの経験を活かしながら策定を進めていきたい。

【澤氏】

- 総合戦略は内閣府のもとに策定されているが、他の省庁から自治体運営や市民生活にかえて弊害が起きているのではないかという話も聞く。
- 多摩ニュータウンのエリアには 4 つの市がまたがっているが、自治体の境界を無くして施策を展開したほうが、ニュータウン全体として活性化につながるのではないかといった意見がある。
- 隣同士の行政の連携によって、より地域が活性化できるといった視点についても、情報収集が必要である。（相模原市に新駅開設予定のリニア新幹線のことなど）

【都市計画部長】

- いろいろな府省庁と意見交換している。国も含めて、これからのまちづくりを模索している状況である。これまでの人口が増加し続けていた時代が終わり、出生率の低下や出生数が減少する局面においては、財政面で大きな影響が生じる。
- これからのまちづくりにおいて、サービス水準を落とさずに持続可能な形にシフトさせるために、国もいろいろな施策を打ち出しているが、答えが無い状況である。
- 現実的には、施策が計画や補助金と連動しているといった行政的なニーズもある。
- 外部環境が想定以上にめまぐるしく変化している。
- AI の導入によって、雇用の形態がどのように変化していくのか。また、それが地域にどのような影響をもたらしていくのかが、今後大きな問題になる。
- KPI については、分母の取り方ひとつで大きく見方が変わってくる。客観的に評価したうえで、各施策のウェイトを総合的に判断していく必要がある。
- 都市計画を含めて、まちづくりは非常に難しい局面に入ってきている。引き続き、皆さんのご意見

をいただきながら、検討を進めていきたい。

【石川氏】

- 農業生産額が年々減少している中で農業に新規就労者もなかなか参入しづらい施策になっている。これをどうカバーしていくのかといった視点が必要である。
- 人口がどんどん減少していくが、その年齢構成はどのようになっているのか。この分析を行わないと、施策に生かすことができないのではないか。

【中庭氏】

- まず、八王子は、都市か地方なのかをしっかりと区別する必要がある。国の総合戦略は、基本的に地方向けの施策となっている。（八王子は首都圏にあり都市）
- 地方の場合は、事業者のネットワークを作る以外に地域活性化はありえない。関係人口を絡めたいので、新しいイノベーション、ビジネスを生み出していくといった方策。少ない人数で、1人当たりの満足度を高めていっている。
- 都市部では事業者も多く、今後はPFIの活用が重要になってくるのではないかと考える。
- 次期戦略を社会的・経済的に成功させていくには、現行の各政策軸（①～④）に各所管の事業が並んでいるような縦割りの形ではなく、まさにこの政策軸に横串を指すような「事業プロジェクト」を作っていく必要があるのではないか。
- いろいろな事業者が関わる中で、PFIのような形で行政がどのような役割を果たしていくのかというのを、それぞれの事業プロジェクトの中で考えなければならない。
- 規模が縮小していく中で、統一的に全て行うことは困難である。難しいところは切り捨てることも、場合によっては必要になってくる。
- 行政側は「所管」と考えるが、庁内連携の視点をもって、「網の目」を構築していくといった考え方で、基本構想・基本計画をまとめていく必要がある。
- 重要なのは、基本計画の下に連なる施策、事業である。事業のないところに施策はなく、施策の無いところには計画はないことも忘れてはならない。（総合戦略をどのように活用していくのか）

5. その他

《説明》

【事務局】

- 本日いただいた意見を参考とさせていただき、平成30年度（2018年度）実績報告書を作成のうえ、9月に公表する。
- 総合戦略の改定については、年末に示される国の総合戦略を踏まえて検討を進め、改めてご意見をいただく予定である。

6. 閉会